

学校内掲示物についての一考察

— デッドスペースの有効活用の一例として —

船 田 智 史 (樟蔭中学校・高等学校)

第1章 本研究の目的と方法

私学にとって生徒募集は、現在欠かせない校務分掌の1つとなっている。本校でも、対外的に学校外で募集活動をする教師組織があり、「入試広報室」と呼ばれている。一方、学校内での生徒募集に関わる入試イベントも頻繁に行われており、「入試委員会」という組織が担当している。入試本番の企画・運営はもちろんのこと、主にオープンスクールや入試説明会の段取りもこの分掌が行っている。その中で、学校内の様子や学習環境を見学する受験生およびその保護者が年々増加している傾向にあり、近年は「見せる学校づくり」を考えていくことが求められてきている。

一方、本校のような、大学付属の系列校の場合は、「出口」の大学入試の実績において秀でた進学実績がなく、系列大学への進学や推薦入試における進学が大半を占めている。「入口」では、非常に高い学力の受験生層が集まるわけでもなく、標準的なレベルより下の生徒たちの受験生がボリューム層である。ゆえに、毎年、基礎学力の定着を基本とした教科学習をメインとして、授業が展開されている。特に、基礎的な学習を繰り返し勉強することから始まり、徐々に学習効率を上げていこうという復習重視の学習体系の試みが、この数年行われている。その中で、学習事項の定着の弱い生徒が、現在の課題となっている。

本研究では、基礎学力の定着を図るために、生徒が学校内のいろんな場所で目にする掲示物に着目し、その有効な利用方法を実践する。また、オープンスクールや学校説明会などで本校の受験を考えている生徒やその保護者にその掲示物を見ていただくことで、本校の教育活動の理解を助けるアイテムになることの検証も実施する。

具体的には、以下のような授業実践を行った。

本研究に対して、平成24年度の2学期および3学期を中心に、中学1年生を対象として実施した。実施教科としては、中学（技術）の授業を利用した。英語や国語の教科との連携のもとで行い、学年担任団の協力も仰いだ。本校では、今年度、週1時間の技術の授業が中学1年生に配当されており、コンピュータを使った教育を中心にカリキュラムが組まれている。生徒自身が、1人1台のIT機器（パソコン）を用いて、掲示物を作成した。

- 英語科との連携では、英単語を学習していく進度に合わせて、英単語とそれに合わせたイラストを添えたカードを作成した。毎週の単語テストの範囲に沿って、その週に覚えなければならない英単語を1人1単語として割り当てた。
- 国語科との連携では、冬休みの宿題として課された「百人一首の暗記」、および百人一首の出題テストに備えて、1人一首を担当した。

<実施計画>

1学期は、普段通りの単語テストを行い、2学期からの実践とすることで、比較対照とした。また、英語科との打ち合わせを行い、使用する英単語の選定をした。英単語テストは、各10問～12問で終礼時に実施した。1週間に同じ問題を2回行うことで、定着度を上げる試みをした。

オープンスクールや入試説明会の多い2学期以降で単語テストのスケジュールに合わせて、技術の授業

で作品の制作にとりかかった。50分授業の中で、最後の20分間でこの作業にあてた。

掲示作業は、翌日の火曜日がホームルームであるため、担任の先生の協力を得て、全員で行った。掲示場所については、中学1年生が普段から通路として利用している教室に一番近い階段（2か所）とした。階段の足元の壁に沿わせるように養生テープもしくは、両面テープで貼り付けをした。

表1 単語テストのスケジュール表

	制作日	掲示日	テスト日
1	9月3日(月)	9月4日(火)	9月8日(土)、10日(月)
2	9月10日(月)	9月11日(火)	9月15日(土)
3	9月17日(月)	9月18日(火)	9月24日(月)
4	9月24日(月)	9月25日(火)	10月6日(土)、15日(月)
5	10月15日(月)	10月16日(火)	10月29日(月)
6	10月29日(月)	10月30日(火)	11月5日(月)、10日(土)
7	11月5日(月)	11月6日(火)	11月12日(月)
8	11月12日(月)	11月13日(火)	11月17日(土)、19日(月)
9	11月19日(月)	11月20日(火)	11月24日(土)、26日(月)
10	1月21日(月)	1月22日(火)	1月26日(土)、28日(月)
11	1月28日(月)	1月29日(火)	2月2日(土)、4日(月)
12	2月4日(月)	2月5日(火)	2月16日(土)、18日(月)



写真1：パソコンでの作成の様子



写真2：全体の授業風景



写真3・4：階段に貼っている様子



写真5・6：単語カードを貼る前と貼った後

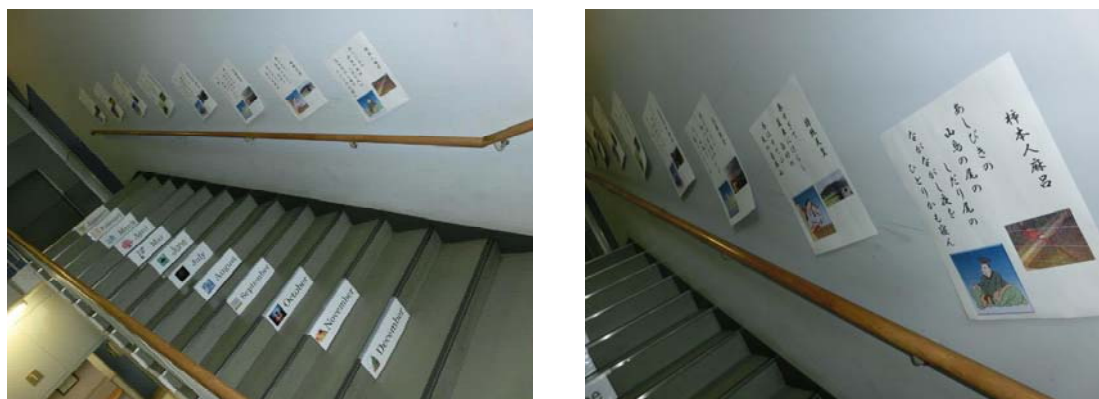


写真7・8：百人一首ポスターを貼った壁

第2章 本研究に至る経緯と意図

1. 教科学習の教材として

本校においても、基礎学力の低下が長年の課題になっており、様々な教材や指導方法も試みながら、生徒の学力向上に向けて教師集団が一丸になって努力をしている。しかし、基本的学習事項についてはなかなか定着せずに、学習意欲が低下していく生徒も少なからずいることも確かである。その傾向には、長期間の暗記ができない、理解に時間がかかる、じっくり取り組む姿勢ができていないなど一定の原因が見えてきた。本研究では、その対応策として、既習事項を生徒自らの手でまとめて、パソコンを用いて、カード化して印刷した物を掲示物として貼り出す作業をする。生徒の学校生活の様子を調査し、よく通る階段のいつも目にする前面（デッドスペース）に掲示することで、記憶の定着を図ることをねらいとする。駅や商店の足元の階段によくある宣伝広告のようなイメージを考えた。

2. 生徒募集のツールとして

本校では、オープンスクールや学校説明会を実施しはじめてから約10年が経過する。毎年、様々な工夫を凝らして、来校者に私学としての教育活動を見てもらおう努力をしているが、休日での実施にならざるを得ないために生徒の活動を直にみってもらうことがなかなかできず、マンネリ化が進んでいる。また、実習教科では、実習作品が成果物として表現でき、それらを展示することで、授業をイメージしてもらえるのである。しかし、英語や国語・数学といった直接、進学指導に関わっていく教科では、それらが見えてこないのが現状である。本研究では、パソコンの授業を受け持つ「技術」が「英語」や「国語」の教科と連携を取りながら、生徒自らがパソコンで「暗記カード」を作って掲示することで、学習環境の1つの側面を表現しようというものである。もちろん、上述の教科での学習に効果的であるという成果を伴ったものであることも前提となる。学校全体上げての取組みになることで、本校の雰囲気高め、志願者増につながる要因の1つになればよいという意図も含まれている。

第3章 研究成果と考察、評価

本研究は、以下の2つの要素からなる研究成果を期待して実施した。

- 学校全体で1階から4階までの階段が本館で5か所、南館で4か所存在する。生徒の学校内での生徒の導線を十分に検討したうえで、一番多くの生徒が目にする学年に合わせて、掲示する階段の設定をする。自分たちが作成した「暗記カード」の掲示物を自然と目にすることで、基礎的学習内容の定着を図る。授業中以外の移動中の生徒の視線が「暗記カード」に行くことで、学習活動への意識付けができ、学校内の雰囲気が落ち着くようになると期待できる。小テストや単語テスト、基礎チェックテストにおいて、その効果があらわれるかどうかを検証をしたい。

⇒生徒の感想

- 行き帰りに階段を見て、意識して暗記ができるので、よかった。
- 自然に見ることができたので、身についた。
- 為になったので、続けてほしいです。
- 成績はあまり上がらなかったが、意識して見ることができた。
- 毎朝、確認してみることで、よく覚えることができた。
- 成績の上昇があり、効果があると言える。
- × 貼る順番を下からしてほしかった。
- × イラストの絵だけが気になって、そればかり見ていた。
- × あまり見ていなかった。
- × 階段に貼る時に、意味があるのか？疑問に思った。

- 学習環境の整備の一環として、学校内の雰囲気づくりに貢献できると言える。大阪の地において、学習環境が整っている学校を第1優先に学校を判断される保護者が多いことは、今までの本校での来校者アンケートによる統計からはっきりと読み取れている。よって、本校の普通の5教科の学習状況を一目で理解していただくような掲示物とそれらによる学習成果で裏付けが取れるのであれば、1つの学習教材として生徒募集のツールとして表現できると考えて検証をしたい。

⇒「来校者へのアンケート」を実施することで、その評価を試みる予定であったが、学校行事とのかねあいから実施することができなかったことが残念である。しかし、オープンスクールや入試説明会で、興味を持って質問される来校者の保護者がおられたことは確認している。

以上の要素は、私学の教育経営の上では切り離せない表裏の関係にあり、相乗的な教育活動ができれば十分に効果的であると考えられる。

第4章 まとめ（課題と展望）

以下に、いくつかの課題もみえてきたので、まとめを述べる。

- 本研究は、実施する技術科と、様々な教科との協力で進めていく予定であったが、英語科との連携しか取ることができなかった。週1回の技術の時間で、パソコンを使ったカード作りにおいて、当初の計画より時間がかかってしまったと言える。
- 同じ建物に教室がある高校2年生において、担任からの発案で実施をしたクラスがあった。高校2年生では、口で言えてもつづりはうろ覚えという生徒がおり、階段に貼ったものをきちんと覚えるというところまでいかなかったようである。楽しんで、口ずさみながら階段を上がる生徒の姿があったが、点数には結びつかなかったようである。
- 中1の生徒の中から、英単語以外でもやってみたいという声が出たクラスがあったので、冬休みの宿題であった「百人一首」をカードにして、廊下や階段の壁に貼ることもやってみた。これについては生徒の発案で試みたところもあり、廊下で口に出して読みながら歩く生徒が多くいた。
- 校内の掲示物については教員側から、貼りすぎるとみぐるしいとか、階段の足元の掲示物が上靴にひっかかって危ないかもしれないとかの意見をもらうことがあり、その都度、修正しながら学校内の理解を求めた。